

令和 3 年度 県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育成する学校 (2) 伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校 (3) 普通科・生活デザイン科が相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、社会に貢献できる生徒を育成する学校 (4) 家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○入学時に比べ、コミュニケーション能力が向上していると感じている生徒の割合は 78.0%、自分や他人の新たな能力に気づいたと感じる生徒の割合は 60.1%であった。本校が「コミュニケーション能力の伸張」や「潜在能力の気付き」に力を入れていることを知っている生徒の割合があまり高くない。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、「わかる授業」を実施する。「教わる」から「学ぶ」への意識の変化を求め、インプットからアウトプットへ授業内容の理解や深化を支援するアプローチの研究と実践を行う。学科併置校の強みを生かし、全教科が有機的に繋がる学びの場を創出する。 ○国公立大学合格者 1 名、学校斡旋の就職内定率 100%であった。キャリア教育の意義について、全教職員の共通認識のもとで行われる指導を充実させる。入学時からの高い進路目標と意識の継続のための効果的・系統的な指導の工夫を図る。現状に即応する情報の提供と進路実現を支援できる体制を整備する。自己の可能性の発見や実現に向けたキャリア・カウンセリングの機会の確保と質の向上を図る。 ○90%を超える生徒は、「自らがルールを守っている」、「挨拶・礼儀・マナー」について肯定的に捉えているが、他者に配慮し、協働して問題解決を図ることができる態度を育成する。	①「筑翠ルネサンス」(チャレンジ・プロジェクト)の推進	○普通科と生活デザイン科の協働を図り、地域の課題を発見・解決し、新しい価値を創造する教育活動を展開する。 ○生徒が地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを生かし解決策を話し合っ、学校内外へ向けて提案・実践する取組を実施する。 ○日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 ○自国文化や異文化の理解を深める指導の充実を図り、国際交流体験活動を定着させる。	A
	②豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実	○生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。 ○「道徳」や「道徳プラス」の授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的・効果的な活用と教育相談体制の強化を図る。 ○教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。	A
	③探究を軸とした学びのスタイル改革と I C T 教育の推進	○生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、自ら主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを構築する。 ○協働学習・「個別最適な学び」・「協働的・探究的な学び」・反転学習等、I C T を活用した教育活動を推進する。 ○学習アプリの活用を促進する。 ○異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。	B
	④多様な進路希望に対応したキャリアデザインの形成	○自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図る。 ○就業体験活動(インターンシップ)等、キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進する。 ○キャリア・パスポートの活用と充実を図る。	B

別紙様式 2（高）

○生徒が自分自身の行動について見つめ、考えることのできる指導の工夫と自己指導能力を育成する。生徒一人一人の状態や特性を理解し、教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行う。不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けて、定期的な教育相談を実施することで、早期の適切な対応に努める。生徒一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制の充実が求められる。 ○令和 2 年 6 月の平均超過勤務時間 8 時間削減、同年 11 月の平均超過勤務時間数が 9 時間削減されている。職員会議でのペーパーレス化、留守番電話の利用、部活動終了時間のアナウンス、教材のデジタル化の蓄積など、教職員の負担軽減に努めている。		⑤部活動やボランティア活動等の体験的活動の充実	○教職員の支援のもと、部活動の充実を図るための取組を推進する。 ○生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させ、シティズンシップ教育を推進する。 ○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。	B	
		⑥開かれた学校づくりの推進	○学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者・地域社会との連携を強化する。 ○学校WEBページの充実やSNS等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。	B	
		⑦働き方改革の推進と職場環境の改善	○定時退勤日や完全退勤時間等を設定し、超過勤務時間の縮減に努める。 ○時差出勤制度を積極的に活用する。 ○部活動運営方針の徹底を図る。 ○教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	A	
		⑧コンプライアンスの遵守	○厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ○教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を改めて思い起こすとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。 ○教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育職公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	地域社会の産業と伝統を中心となって支え、多様性を認め、自他ともに尊重できる人間の育成		B	・卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標を設定する。
	「教育課程の編成及び実態に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	個別最適な学びと探究活動、様々な体験学習によって、基礎的・基本的な学力と豊かな人間性を育み、多様な進路希望を実現		A	・教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制の構築を図る。
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	本校の学習や活動に好奇心をもって意欲的に参加し、自己の可能性を信じて前向きにこつこつと取り組む姿勢と、思いやりや素直さをもつ生徒		B	・入学希望者や中学校関係者に対し、本校が期待する生徒像を明示する。
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に合わせ各分掌と調整しながらよりよい教育課程を作成し、適切に運営する。		B	B ・新学習指導要領に沿った学びのあり方についての研修を
		新学習指導要領の導入を見据え、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。		B	

別紙様式 2 (高)

		各学年、教科ごとのシラバスを作成し、有効活用を図る。	A		積極的に行う。 ・新しい学習評価についての校内研修を検討する。 ・本校の活動を広く紹介できるよう広報活動をより充実する必要がある。
	適切な学校行事を作成し、教育活動の円滑な実施に努める。	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成する。 状況の変化に応じて柔軟に学校行事の運営を行う。	A		
	事務処理の効率化と適正な情報管理を図る。	校務支援システムによる成績管理システムを整備し、全職員が円滑に運用できるようにする。	A		
		成績一覧票、通知表等の処理を円滑、確実に行う。	A		
		奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。	A		
	広報活動を充実させる。	学校公開の情報をインターネット等を通じて、確実に発信する。	B		
		進学フェアへの参加、中学校訪問等を行い、様々なニーズに対応した広報活動を行う。	B		
		学校案内パンフレットの内容を充実させる。	A		
進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1学年:進路講演会、職業人との懇談会等を通して早期から高い進路意識を育成する。	B	B	・コロナ禍の中でも懇談会やガイダンス等を実施できるように、オンライン等を利用した環境を設定する。 ・必要な情報を生徒自ら取得していく意識改革とその支援を行う。
		2学年:進路別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	B		
		3学年:1・2学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。	B		
	より高い学力を養成し、大学・専門学校の進学率を高める。	土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させ、より高度な学力・応用力の向上を図る。	A		
		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。	A		
		校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、高い志を持って進路選択ができるよう指導する。	A		
生徒指導	基本的生活習慣を定着させる。	服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身につけさせる。	B	B	・敬語など、正しい言葉遣いを身につけさせる。 ・校外での服装指導を計画的に行う。 ・規律委員による挨拶運動や行事での巡回を通してルール、マナーの遵守を促す。
		生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	A		
	心の教育を充実させ、規範意識とモラルの向上を図る。	規律委員を中心に挨拶を率先して行い、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。 自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	B A		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	A		
		生徒の小さな過ちを見逃さない。	B		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	A		
	地域社会の信用を得る。	学校外での行動に繋げるための望ましい習慣を身につけさせる。	B		
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	A	A	・関係機関、学年、保護者と連絡を密にとり、早期発見・早期解決に努める。 ・SNSを通して行われる生徒間の不適切な情報交換につ
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。	A		
		情報モラル教育を推進する。	B		
	早期発見に努める。	生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
		相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。	A		

別紙様式 2 (高)

	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	A		いて指導する。
		加害者に対して、いじめをやめさせる指導を徹底する。	B		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
		インターネットを通じて行われるいじめの対応をする。	B		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	A		
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。	A		
	教職員の研修を深める。	いじめや、インターネット環境等に関する研修や実践的研修を行い、いじめの対応方法の共通理解を図る。	B		
特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	生徒会役員を中心に、生徒の自主性を尊重した生徒会行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	A	・生徒会を中心とした生徒の自主的な活動を促す。 ・コロナ禍による制約をふまえた行事の企画と実施について検討する。
		制限のある行事の中で創意工夫する経験を蓄積することを目指す。	A		
	体験活動に取り組ませる。	ボランティア活動やスキー教室を通して、豊かな人間性を育むことができるよう、体験的な活動を支援する。	B		
	部活動の活性化を図る。	入部制度やリーダーの育成を工夫し、部加入率の向上を目指す。	A		
	キャリア・パスポートの活用を促進する。	単なる記録にとどまらず、自己変容と自己実現に向けて主体的に取り組むことを目指す。	B		
企画開発	石岡二高の「総合的な探究の時間」のあり方を確立する。	体系的な「総合的な探究の時間」を構築していく。	A	A	・地域との連携・協力をさらに強化していく。 ・コロナ禍が収束してもICTの活用をさらに推し進めていく。 ・SNSの利用を工夫し、入学希望者数の増加を目指す。
		グループ活動の進め方を学校全体で徹底して行う。	B		
	ICTの活用を推進し、学校全体に促していく。	学校全体でICTを活用していくための企画を提案し、実施していく。	A		
		スタディサプリ・Classiの運用についてイニシアティブを発揮する。	A		
	新しいチャレンジ・プロジェクトを企画、実施していく。	グランドデザインを柱とし、探究との関りを考慮したチャレンジ・プロジェクトを企画する。	A		
		チャレンジ・プロジェクトで、生徒の心を動かす活動を行う。	A		
保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備するとともに、適正な職場環境の整備に貢献する。	SNSを利用して生徒の活動・学校の情報を発信し、石岡二高への入学応募者数の増加を目指す。	B	A	・清掃用具と衛生用品を充実させ、校内の整備美化を進めることができた。 ・カウンセリングや特別支援の巡回相談を実施したが、さらに必要な支援を継続して行う。
		安全点検、環境衛生検査を実施する。	B		
		清掃監督の先生方や整備委員と連携し、普段の清掃活動に加え、ワックス塗布、大掃除等を行い校内美化に努める。	A		
	心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。	衛生委員会による職員への健康に関する研修を推進する。	B		
		保健委員、福祉委員と連携し、外部講師による性教育講話と献血を実施する。	A		
		生活習慣を見直し、健康的な生活の維持に努める。	A		
		担任・保護者・SCと連携し、生徒をチーム支援していく。カウンセリングの環境を整える。	A		
		特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	B		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育活動の更なる発展に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	B	B	・図書の選定については、生徒等の協力も得て、良書を多く購入することができた。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	B		
		SDGsや民族共存など現代の諸問題に関する書籍を増やし、生徒の利用する意欲を高める。	B		

別紙様式 2 (高)

	生徒の想像力を培い、それぞれの興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。	A		・ビブリオバトルやコンクールへの参加など、生徒の読書活動をさらに活性化させていく。
		教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。	A		
		ビブリオバトルや読書感想文コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。	B		
渉外	保護者の参加意欲を高めるため、PTA活動への親しみや関心を持てるように広報するとともに家庭との連携を深める。	生徒が安心・安全な生活をできるように、広報誌や PTA 各支部による広報活動を工夫することで情報を発信し、会員相互の連携強化を目指す。	B	B	・ P T A 活動に対する保護者の理解を得られるような活動方法を探る。 ・ 運営方法の整理・改善と情報発信に努める。
		地域の巡回指導を継続するとともに、マナーアップ推進運動に参加・協力し、地域社会に貢献する。	A		
		各支部役員の適正な人数やよりよい選出方法を、役員とともに検討する。	B		
		役員とスムーズかつ密な連携を図るために、現代の生活スタイルに合う方法を検討する。	B		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	2つのコース制(フードデザインコース・ヒューマンサービスコース)を取り入れることで、特色あるコースごとの授業を展開する。各コースに合わせた外部の専門家の指導を仰ぎ、より専門性を高め、職業人としての資質を育成する。	A	A	・ 校内研修を通して I C T 教材研究の充実を図り、授業改善に活かしていく。 ・ コース制の充実のために、教育課程について時間をかけて検討する。
		課題研究(5講座)を2・3学年合同の授業とすることで、学年を超えた学びの場を設ける。探究活動の成果を発表する場を設け、専門性と自己有用感を深める。また、保護者や地域住民及び近隣中学校に向けて、生活デザイン科の特色について広く発信していく。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ活動を通して、講習会やボランティア活動、校内外の奉仕活動などへの積極的な参加を促し、社会参画や勤労への意欲を高めさせるようにする。	B		
		家庭や地域との連携を図りながら、ホームプロジェクトを実施し、発表活動を取り入れることで、探究学習の充実を図り、研究活動を継続していく。	B		
	各種検定の資格取得を目指す。	生徒の個に応じた資格取得を目指す。放課後や長期休業中に課外指導を行い、基礎基本の技術を修練し、家庭科技術検定やビジネス文書実務検定の合格を目指す。	A		
第1学年	基本的な生活習慣を身につける。	怠慢な欠席・遅刻・早退を見逃さずに指導し、授業開始には準備を完了して待つなどの行動を徹底させ、時間を守る習慣を身につけさせる。	B	A	・ 遅刻指導、礼法指導の徹底を図る。 ・ 主体的な学習態度を育成する。 ・ 進学希望者の学力向上と最適な指導体制を構築する。 ・ 情報リテラシー向上と学習コンテンツの有効利用を図る。 ・ 協働力、共感力、リーダーシップの向上と、よりよい人
		学習課題の提出を促し、未提出の生徒への指導を徹底することで、学習習慣の確立を図る。	A		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	ICTの活用やアクティブラーニングを推進し、魅力のある授業作りに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリ等の学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、上級学校への進学を希望している生徒の学力向上を図る。	B		
		総合的な探究の時間や講演会などの進路行事を通して、探究活動を推進し、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成する。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	B		間関係の構築に努める。 ・自分自身の特性を知り、課題解決、克服に向けて行動できる態度を育成する。
第2学年	基本的な生活習慣を確立する。	1年後の進路を見据え、TPOに合わせた挨拶の励行・適切な言葉遣いや敬語使用の徹底を図る。	B	B	・進路希望の実現のための基礎学力の向上及び礼法指導を行う。 ・自他を共に大切にし、尊重し合える態度を育成する。 ・集団の中で主体的に自分の役割を果たす態度を育成する。
		保護者との連携を密にし、規則正しい良好な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席をさせないようにする。	B		
	基礎学力の向上及び進路目標の早期決定を図る。	チャイム前着席と授業の準備を徹底し、落ち着いた態度で授業を受けられるようにする。	B		
		考查前学習週間・課外授業、週末課題等の学年の取り組みをさらに充実させ、進路実現のための学習習慣の確立を図る。	A		
	心豊かな人間性を育成する。	卒業後を見据え、社会人としての自覚、公共心、他人への配慮の育成を図る。	A		
		修学旅行や各種行事を通して、集団への帰属意識、集団における規律遵守、協調性や積極性を養う。	B		
第3学年	社会人としての姿勢・心構えの育成と基本的な生活習慣の維持に努める。	進路を見据え、TPOに合わせた挨拶の励行・敬語使用の徹底を図る。	B	B	・学年と進路指導部とで連携し、就職希望者全員の内定を得ることができた。 ・遅刻・欠席等の家庭連絡の円滑な体制、教員間の情報共有、遅刻指導について検討する。
		保護者との連携を密にし、規則正しい良好な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席をさせないようにする。	B		
	基礎学力の向上・定着と進路の決定を図る。	チャイム前着席と授業の準備を徹底し、落ち着いた態度で授業を受けられるようにする。	B		
		考查前学習週間・勉強会等の学年の取り組みをさらに充実させ、社会人としての一般常識・基礎学力の向上・定着を図る。	B		
		進路指導部と連携し、学年が協力・連絡を密にして、生徒の希望進路を実現する。	A		
	人間性豊かな社会人の育成を図る。	卒業後を見据え、社会人としての自覚、公共心、マナー、他人への配慮の育成を図る。	B		
		各種行事を通して、集団への帰属意識、集団における規律遵守、協調性や積極性を養う。	A		
国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	B	・「話す・聞く」、「書く」の活動の活発化を図る。 ・学校図書館やICTの活用をさらに積極的に行っていく。
		辞典や便覧とともにICT機器等を利用し、さまざまな文章の読解力を高める。	B		
		単元ごとにさまざまな本を紹介し、読書に対する意欲を喚起する。	B		
	古典の世界に親しませ、基本的知識の習得を図る。	画像や音声等を含む教材を利用し、古典の世界に親しませる。	B		
		基本的知識を定着させるとともに、文章を正しく速く読めるよう多くの文章に触れさせる。	B		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	問題集等を活用して国語に関する一般常識の理解を深める。	B		
		教員間で情報を共有して一人一人の生徒の指導に当たり、進路希望の実現を図る。	B		
地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進させる。	ICTを積極的に活用し、生徒の実態に応じたわかりやすい授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら理解度を確認し、基礎的な内容の確実な定着を図る。	A	B	・講義形式の授業だけでなく、課題探究型の活動を充実させる。 ・生徒自身がICTを活用して発表を行うような活動を増
		シティズンシップ教育や課題探究型の活動を充実させ、平和で民主的な国家及び社会の形成者を育成する。	B		
		地域の歴史と日本史や世界史を結びつけた授業を行い、地域の歴史を多面的に理解した人材	B		

別紙様式 2 (高)

		を育成する。			やしていく。
数学	生徒の学習意欲を喚起し、進路に応じた指導をする。	重要な公式を確実に身につけ適用できるようにすることで、数学の有用性を認識させて学習意欲の喚起を促し、具体的な目標を定めて学習する姿勢を身につけさせる。	A	A	・ I C Tを活用した学習コンテンツに課題がある。 ・ 上級学校への進学を希望する生徒に応じた指導を放課後課外に限らず行っていく必要性がある。
		課外授業や個別指導、ICTを活用した学習コンテンツ等を通して、上級学校へ進学を希望する生徒に応じた指導を行う。	B		
	基礎学力の定着を図る。	第1学年普通科では学習習熟度に応じて2クラスを分割にし、学力に応じた授業を展開する。	A		
		第1学年ではスタディサプリを活用するほか、他学年においても問題集やプリント等を積極的に活用し、家庭学習を促進して理解度を高める。	B		
情報	知識・技能および情報の分析・評価・判断力を育成する。	情報機器を操作する時間を定期的に設け、情報社会の変化に対応できる能力を高める。	A	A	・ 新たな技術に対応できるような指導の継続が必要である。 ・ 情報モラルについては定期的な指導の必要性がある。
		アプリケーションソフトを十分に活用し、情報を効果的に処理できる能力を身に付けさせる。	B		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。	A		
		インターネットに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	A		
理科	基礎学力の定着を図る。	小テスト等によるスモールステップでの指導を行う。	B	B	・ I C T教材を活用しつつ、各科目で実験を積極的に取り入れ、生徒の興味・関心が湧くように努める。 ・ 環境問題等に思考が及ぶように指導する。
		学びあい活動等のグループワークやプレゼンテーション等の活動を通して、自らの考えを自らの言葉で表現できる力を養う。	B		
		電子黒板やタブレット端末等のICT機材を活用し、双方向型の授業を行うほか、課題配信等も行う。	A		
	観察・実験を通して、理科的に探究する。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。	B		
		観察・実験の結果の分析、解釈、考察など、理科的に探究する過程を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。	B		
		実験器具の使い方や実験終了後の整理整頓まで主体的に行動できるように指導する。	B		
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割および環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを理解させる。	B		
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	A	A	・ 体育実技においても I C T利用に積極的に取り組む。 ・ 男女共習に関しても、生徒の実態に応じながら取り組んでいく。
		授業を通し礼儀やルールを守る態度の向上を図る(指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等)。	A		
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	A		
	卒業後も主体的にスポーツや健康課題に取り組める能力の育成を図る。	主体的な活動場面を多くし、考える力や、コミュニケーション能力の育成を図る。 ICTを活用して、スポーツや健康課題に主体的に取り組むことができるようにする。	A B		
英語	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施し、ノートやワークブックを定期的に提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	B	・ 英検受験者が増え、外部コンテストにも参加し、結果を残すことができた。 ・ I C T機器の活用を通じ、授業内容の幅を広げる。
		第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A		
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	B		
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	B		
	英語の授業の改善に努める。	授業内容・方法について教科内で研究協議を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

	英検取得を促す。	英検対策課外を行い、過去問題を活用して、検定試験の対策を行う。	B		
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった授業を工夫し展開する。	A	B	・オンライン学習の効果が高かったため、継続してICT利用に取り組む。 ・校外における学習の充実を図る。特に、福祉系施設への訪問や体験実習等においては、可能な限り実施する。
		実験・実習などを通して各種知識・技術の基礎基本の定着を図る。また、課外や補講を実施することで実践的で専門性の高い能力を身に付けることができるように工夫する。	B		
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	生活デザイン科においては、コース制での授業や課題研究での合同授業など多彩な講座を展開することによって、教科内容の充実を図る。地域の施設との連携や外部の専門家による指導、コンクールへのチャレンジを通して、生徒の意欲・関心が高まるように指導の工夫をする。	A		
		普通科においては、体験的な学習ができるように学年と協力し、専門性の高い講習会を実施する。変化に即応できる生活者としての知恵を身に付け活用できるように指導を工夫する。	B		
	作品づくりと自己評価をすることで、学習への取り組みの意欲を高める。	自己評価と他者評価を行うことで、作品づくりの意欲を高め、完成させることで達成感を感じられるような指導の充実を図る。	B		
芸術(音楽)	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身につける。	多様な音楽活動を通して、生涯にわたって自ら積極的に音楽活動を楽しむ態度を育てる。	B	B	・ICTを活用し、生徒同士、生徒教員間など双方向性の授業の在り方を模索する。 ・感染症と共生する社会における音楽を視野に入れ、新生活様式での音楽活動を研究・実践していく。
		歌唱・器楽の活動において、グループでの活動などを通し、音楽を作り上げる喜びを味わう。	B		
	多様な音楽文化への理解を深め、音楽に対する感性を磨く。	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B		
		日本の伝統的な音楽の演奏や鑑賞を通して、日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	A		
芸術(美術)	美術を愛好する心情を育て、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。	問題発見・解決を念頭に置いて、関心・意欲を高めながら一人一人が輝く個性あふれる主体的な作品制作を行い、完成させる成就感を味わう。	B	B	・期限内の課題提出の徹底を継続していく。 ・現在ある環境を生かしてICTを活用した授業を実施する。
		画材の基本的な使い方を習得させ、期限内の課題提出を徹底する。	B		
		原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、美術文化の歴史や価値について理解を深めるとともに、現代アートや現代のデザインについても学び、今起こっていることに目を向ける。	A		
事務部	予算管理の適正化を図る。	各校務分掌とのヒアリングを実施し、不要予算の削減と必要予算の配分を行い、効果的な予算執行に則した配分への転換を図る。	A	B	・植栽等の剪定に関しては、適切な時期に計画通り行うことができた。 ・LED照明の順次導入などについては、コロナ禍において物品の納入状況が不安定なため、実施できなかった場所もある。引き続き来年度以降実施していく。 ・手洗い場の自動水栓化など
		必要物資等の把握により集約調達を行い、効率的な契約方法により費用の節減を行う。	A		
		設備等の経年劣化による故障や修理箇所が増加しているため、緊急性・必要性を考慮するとともに修理・修繕内容及び範囲などを検討し、必要最低限の対応を図る。	B		
		水道料金については、毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。	A		
		電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用、LED照明の順次導入により、節電を行う。	B		
	施設の安全と環境美化に取り組む。	日常的な点検を実施し、危険箇所の発見及び簡易な修理・修繕が可能な場合は即時に施工することにより危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。	B		
		植栽等の管理計画を立て、適切な時期に処置を行うことで景観の美化を維持する。	A		

別紙様式 2（高）

	施設設備の整備計画の見直しを行う。	現状の課題と長期的視点を考慮し、効果的な施設の整備計画の見直しを行う。	A		コロナ感染症対策を引き続き行っていく。
--	-------------------	-------------------------------------	---	--	---------------------

※ 評価規準：評価段階 A：十分できた B：概ねできた C：やや不十分 D：不十分